

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 地域福祉課

会 議 の 名 称	令和5年度茅野市地域福祉審議会		
開 催 日 時	令和6年3月11日(月) 19時00分～21時00分		
開 催 場 所	市役所8階大ホール		
出 席 者	<p>【委員】 平出会長、大久保副会長、中村委員、佐々木委員、両角委員、伊藤委員、高木委員、武井委員、田村委員、林委員、宮下委員、五味委員</p> <p>【事務局】 茅野市長、平澤健康福祉部長、平沢高齢者・保険課長、守屋地域福祉課長、小穴健康づくり推進課長、丸茂保健福祉サービスセンター長、清水障害福祉係長、平林高齢者福祉係長、荒井福祉21推進係長、神澤健康推進係長、北原障害福祉担当</p>		
欠 席 者	山岡委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍 聴 者 の 数	1 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
委員	<p>1 開 会</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>3 市長あいさつ(省略)</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 正副会長の選任</p> <p>6 諮 問</p> <p>7 審 議</p> <p>(1) 審議会の公開について 本審議会について公開することに決定する。</p> <p>(2) 第7期茅野市高齢者保健福祉計画(案)について 資料により概要説明</p> <p>計画案29ページの「高齢者福祉センターの活用による福祉的予防の推進」について、地理的条件により参加が叶わないという表記があるが、そういった方に向けて、他の温泉施設を利用して同じような取り組みを導入する事は考えているか。将来を見越しての計画であるため、地理的に利用で</p>		

	<p>きない、今の施設が利用者で埋まっていて、新規の利用者が入れないということがあるなら検討していただきたい。</p>
事務局	<p>地理的条件で参加が叶わないという方たちについては、ゆうゆう館で行っている介護予防事業や教室及び講座関係の参加者というよりも、市社会福祉協議会に委託して実施している介護予防通所事業の利用者となっており、距離の長さなどから利用しづらいという方もいます。策定委員会でも、できればそういった方たちのために別の温泉施設や公共施設で同じような事業ができないかという意見が出ています。限りある場所や予算の中で、出来得る形を今後検討していきます。</p>
委員	<p>今後検討していくという事であれば、計画の方にも記載をしてもらいたい。現在は「より充実した事業の実施を目指します。」という記載になっているが、検討過程を残すという意味でも、先程説明いただいた内容を計画に記載していただきたい。</p>
事務局	<p>承知しました。いただいた意見について、どう検討していくかという部分をもう少し説明するような表現に変えさせていただきます。</p>
委員	<p>今の議論について教えていただきたいが、地理的な問題で、高齢者福祉センターで行われているデイサービスを利用しづらい方がいるということだと思うが、そのサービスは基本送迎が付いているということによいか。また、送迎サービスが付いていても地理的に利用がしづらい方がいるため、別の場所での実施という議論があるということによいか。</p>
事務局	<p>その通りです。送迎が付いているが、高齢者福祉センターから離れた場所に住んでいる方だと、送迎時間が長くなり、本人若しくは家族から遠慮したいという意見があがっています。</p>
委員	<p>老人福祉センター塩壺の湯の年間利用者数である6万人というのは、施設のキャパシティとして余裕のある人数なのか。利用者がもっと増えても大丈夫なのか。</p>
事務局	<p>利用者6万人の内訳はほとんど温泉利用者となっており、日々の人数にすると200名から250名程度の利用がありますが、施設が混雑している様子はなく、キャパシティには余裕があります。利用者が、もっと増えても問題ありません。</p> <p>(3) 第4次茅野市障害者保健福祉計画(案)について 資料により概要説明</p>

委員	<p>48 ページからの「保育・療育・教育」について、最近は発達障害を持つ子どもが5歳児健診では気づかれずに、高学年になってから発覚するといった事例もある事から、もっとシステムチックにきちんとやっっていかなければならないと感じている。また、52 ページにペアレントプログラム、ペアレントトレーニングについて記載があるが、実際に困っている親がいるなかで、利用がしやすく勉強にもなるプログラム等の導入についてどうしていくのか本文中にもしっかり記載するよう検討してもらいたい。</p>
事務局	<p>発達障害の健診等については、これまでの第3次障害者保健福祉計画の中では十分に記載がされていなかったという意見を策定委員会でもいただいております。具体的な取組については、当計画の推進ネットワーク会議において、こども関係の部局等と連携を取りながら検討していく予定となっております。また、ペアレントプログラム及びペアレントトレーニングについても、策定委員会の中でこういった取組を計画の中に盛り込んでもらいたいという意見があり、これまで親に対する取組や支援、あるいは学ぶ場というものが十分確保されてこなかったというところもあるため、計画へ記載をしました。具体的な取組をどのように進めていくのかといったところについては、今後、推進ネットワーク会議の中で議論をしていく予定となっております。</p>
委員	<p>福祉避難所について、市としては障害者を一時避難所に集めてから二次避難所へ移行するといった話を議会ですしていたが、障害を持つ方は、一般の方に迷惑がかかるという思いから、一時避難所の利用を遠慮し、壊れた自宅で無理をして生活をするといった事例もあるため、障害を持つ方については福祉避難所にまず避難してもらおうという形で防災課と検討し、避難計画の変更も検討してもらいたい。</p>
事務局	<p>福祉避難所の在り方については、昨年、福祉 21 茅野のワーキンググループで開設訓練を行うなど、課題等の確認をしています。また、障害を持つ方の避難については、一律に必ず一時避難所へ避難してから二次避難所へ移動をしなければいけないというわけではありません。避難所の運営については、ワーキンググループの結果や、いただいた意見を基に今後も検討を進めていきます。</p>
委員	<p>避難所については、障害を持つ方もそうだが、妊娠されている方の利用の問題も話題になっていると感じている。妊娠されている方や乳児を連れて親の避難所の利用についてどう考えるかについても、どこかの場で議論していただきたい。</p>

事務局	<p>妊娠されている方、乳児を連れている方の避難所の利用についても、福祉21 茅野ワーキンググループで課題としてあがっているため、議論を進めていきます。</p>
委員	<p>今話に出た福祉避難所ワーキンググループでは、福祉避難所の開設訓練を経て、開設場所、必要な物、解説手順といったものの検証を行い、今後は避難する方がどのようにそこへ避難してくるかといったことを検討していくことになる。また、個別避難計画の策定が必要とされている中で、計画の策定には保健福祉サービスセンター、コミュニティセンター、公民館の連携が必要となってくる。これは障害者手帳を持っている人だけが対象ではなく、先程話に出た妊娠している方や、発達障害を持っている方なども含めて策定が必要となってくるが、市だけで一人一人きめ細かな個別計画を策定する事は不可能だと思っている。地区社会福祉協議会やコミュニティ運営協議会等が取り組んでいる防災計画の中に落とし込んでいき、地域の中で計画し合うといったプロセスが必要となる。しかし、これらのことについて、この計画へ細かく記載することも難しいため、福祉避難所のワーキンググループ等で検討をしていくといった程度の記載にならざるを得ないのではと思っている。</p>
事務局	<p>個別避難計画の策定については、市としても力を入れていくために組織の見直しを行いました。個別避難計画の策定は保健福祉サービスセンターを中心に、社会福祉協議会、コミュニティセンターが連携していく必要があるため、そこを統括する係を設け、来年度から本格的に実施をしていく予定です。</p> <p>(4) 第3次茅野市健康づくり計画からだ・こころ・すこやかプラン(案)について 資料により概要説明</p>
委員	<p>フレイルという単語については、まだまだ知らない方も多いため、皆の共通認識として行けるよう、このプランの実現に向かっていってほしい。</p>
事務局	<p>計画にある様に、フレイルや認知症の予防を大きな目標として目指していきます。</p> <p>(5) 第2次茅野市「生きる」自殺対策行動計画(案)について 資料により概要説明</p>

委員	<p>計画案 7 ページの令和 4 年度の自殺対策連絡協議会と、自殺対策庁内連携会議の開催状況について、「1 回（書面）」との記載になっているが、書面会議とはどのように行っているのか。実効性のある会議内容となっているのか。また、自殺者が全国平均と比べても多いことは問題だと思う。10 代から 30 代の自殺者が減少していないと書かれているが、全体として全国平均より多い中で、一体何をするのかというのが見えてこない。学校で教育をするとの記載があるが、こういった内容でどのくらいの時間を使い教育をしていくのかがよく分からないため、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>自殺対策庁内連携会議は、年に 1 回進捗管理と翌年度の計画を立てるために実施をしており、各部署の業務が忙しい中、書面会議という形で行っています。また、学校での自殺対策に関する教育については、各学校にいるカウンセラー等の先生が中心となって取り組んでいる状況で、学校側に任せています。若年層の自殺対策については、二十歳の式典における啓発グッズの配布や、茅野市ホームページ、公式ライン、ビーナチャンネルでの配信をしており、最近では、若い世代からの相談も少しずつ増えてきています。</p>
委員	<p>先程の話から、学校でのケアは学校教育課へ一任しているという印象を受けるが、例えば小学校で子どもがスクールカウンセラーに相談をしたと思ったときに、現在は月 1 回で時間も 30 分と限られているが、その少ない機会の中で対応が出来ているのか心配である。こういった部分について、健康づくり推進課から対応の変更や新たな取り組みについてお願いができるのか。</p>
事務局	<p>実際の状況についてはこちらの課も把握できていない部分があるため、担当課と話し合っていく必要は感じています。健康づくり推進課としても、若年層の自殺対策は重点的に取り組んでいきたいと考えているため、担当課と話し合いの場を持っていきたいと思います。</p>
委員	<p>茅野市の 80 歳以上男性の自殺率がかなり高くなっている。この原因について、健康問題や、介護疲れなど、分かっているのか。</p>
事務局	<p>原因については現状つかめていません。</p>
委員	<p>夫婦でもし仮に心中した場合は自殺に入るのか。</p>
事務局	<p>死亡診断書を書く医師の範疇となるが、ケースバイケースになると思われます。</p>

委員	<p>そういった事態の場合、警察と医師が現場で協議をし、2人とも自殺となるケースもあれば、片方が他殺となるケースもある。</p>
委員	<p>個人的に居場所づくりが大事だと思っている。いろんなタイプの居場所が増えることで、自分に合う空間を選んで見つけることができる。また、コロナ期間中に各年代層、特に子どもの自殺が増えている。子どもたちがこの地域で楽しく生活していくことを考えた時に、区や公民館、コミュニティセンターなど、地域レベルでの活動が必要となってくる。自殺対策というと問題を抱えている人のサポートや、自殺の予防といったこともあるが、基本的には自殺という思いに立ち入らなくて済むような生活環境や日々の繋がりが作られるということがベースにあると思うため、そういったことも見失わずに、関係者が連携して推進していったほしい。</p> <p>諮問については、了承し、審議の中で出された意見について十分に尊重されるよう申し添えて、答申とする。</p> <p>8 その他</p>
委員	<p>高齢者保健福祉計画の中で高齢者クラブの再構築といった記載があるが、今はもうそういった時代ではなく、もう少し違った地域づくりも必要だと感じている。施策や計画について、高齢者クラブだけではなくもう一工夫してもらいたい。</p>
事務局	<p>高齢者クラブにこだわらない形での居場所づくり、仲間づくり、繋がりも必要と感じています。保健福祉サービスセンターとしても、地域は保健と福祉だけで出来ているわけではないため、もっと広い視野で住民の皆さんが何を考え、何を求めているのか考えながら、地域の皆さんと一緒により良い地域づくりを行っていきたいと思います。</p>
委員	<p>私も高齢者クラブの記載については非常に違和感を持って読んでいた。今はもう地域や地区になかなか収まらないのではないかと。色々な趣味の世界だとか、市全域で集まれるそういった場所が出来れば良いのではないかと考えている。</p>
委員	<p>公民館の集まり等に出てくる方は何の問題もないが、一番問題なのは、そういった集まりに出てこない方だと思う。私の地区でも役の受け手がない、若い世代が入ってこないという理由で高齢者クラブが解散している。今はまた80代を中心に、同好会のような形で立ち上がってきているが、その下の世代が何を求めているのか、そもそも高齢者クラブが求めら</p>

委員	<p>れているのか考えていく必要があると感じる。</p> <p>選択肢は多様であるほうが良く、地縁でつながる会としての高齢者クラブがあり、それとは関係なく別でつながる場所もあるというのが大事。そういった居場所を作るにあたり、きっかけやプラットフォームとして、ゆいわーく茅野の活性化は施策として良いのではと思う。</p>
委員	<p>私の地区では、毎月1回公民館でおしゃべり会を行っている。ゆいわーくや塩壺の湯も大事かもしれないが、散歩のついでに気軽に公民館に寄っておしゃべりができる、生まれ育った地区で気軽に集まれる、そういうものを目指したいと思っている。</p>
委員	<p>私は自分の地区の社会福祉協議会で様々な活動を行っているが、常々思うのが居場所を作るのではなく、できるという事。ここに居場所を作ったから来てくださいというのではなく、元々あった人の集まりを広げていく、また、先程話のあった、行事に出てくる人は問題ないが、出てこない人をどうするか、そういった人たちが自然と出てきたくなるようなことを考えて活動している。</p>
委員	<p>まずは外の世界に出ていくこと、そして、出て行った先に自分が受け入れられる居場所があるということが大事であるため、そういった部分も計画に加味してもらいたい。</p>
委員	<p>地域課題は色々あるが、高齢者を取り巻く状況が昔と比べて変わってきている。計画についても、状況に合わせて見直しをしていてもらいたい。</p>
<p>9 閉会</p>	